

双三郡布野村全景



第7号

昭和50年6月30日

発行人 野村節也
編集人 永井又太郎
印刷所 広島県双三郡吉舎町 佐々木印刷株式会社

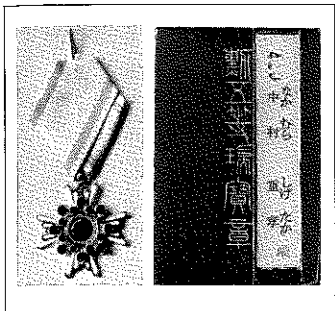
学校医五十年

布野村 中村重孝



今回図らずも、叙勲の光栄に浴しました際には、医師会より御丁寧なる祝詞と貴重な記念品を、お贈り下さいます。誠に有難く厚く御礼申し上げます。

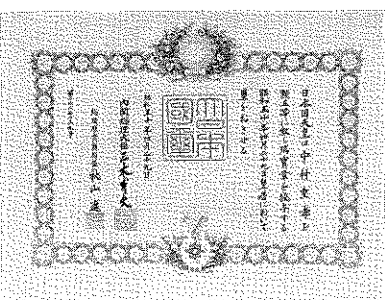
私は、皆様御承知の通り、学校医を担当した医師なら誰もが当然行うべき事を唯永年やって来たというだけの事であって、叙勲に値するような功績は、何一つありません。該当されるお方は、他に沢山おられますのに、私が選ばれま



したのは、誠に冥加の至りでありませんが、受章した今日でも尚、何の功績によつてのか釈然としないのであります。

然し、皇居に於いて天皇陛下より永年の労苦に対するねぎらいのお言葉を賜わり、更に皇居内の拝観などさせて頂き、漸くにして永い自分の来し方を振りかえる事が出来、今更のように医師としての足跡というものをみつめる機会を得たような次第であります。

私は大正十三年、この地(布野村)に迎えられ開業したのであります。が、翌々十五年前任者のお方が、他県へ転出されたので、その後任として学校医を任命されて今日に至っております。いつの間にか五十年という歳月が経過したのであります。校医として、初めて全校児童の身体検査をしたとき、トラホームと頭髪に虱のいる児のあまりにも多いのにびっくりしました。又、濾胞性結膜炎、顔面白癩だの頑癬だの皮膚疾患、脊柱弯曲症の児も大勢いました。私はこれ等の児童を診て何としてでも、トラホームの児童をなくする為、徹底的な治療が必要と考え、学校当局と相談して何学年は何曜日と診察日を定めて、昼食の休憩時間を利用して、患児を来院させて、その治療



にあたりました。先ず、患児を一列並べて、コカインの点眼麻痺をして、次に寝台にねかせてクント圧搾器を用いて結膜をつまみ、圧出させる法をとりました。が、この方法は、患児が嫌がるので、当時、神仏の灯明に用いていた灯心のなべく太くて硬いものを選んで、これを四つに折り曲げ、長さ5cm位のものをつくり、その一端を糸でくくり、持ち易いようにして、それで顆粒を擦過して破り除去する法をとりました。次いで、硫酸銅粉末を綿塊に僅少つけて、結膜面を軽く擦過し、その後洗眼して手術を終りました。術後は、冷罨法を施し、毎日通院させ、洗眼しましたが、割合早く治癒していたように思います。然し、その後の身体検査毎に、一学年に四、五人の患児は見かけました。

頭虱については、水銀軟膏塗擦だの、石油や酢による洗髪等色々な方法をやって見ました中には、虱による膿痂疹が出来た児もいたもので、これには「にしき木」の煎じ汁で頭を洗わせていました。

トラホーム、虱には、永年いろいろと苦労したのにもかかわらず、全滅させわけにはいきませんでした。したが、終戦後いつのまにか影をひそめてしまつて、今では一人も見出す事は出来ません。只、思い出の中に浮かぶだけです。

脊柱弯曲症の児童には、適正な机を与えるよう指示し、又、鉄棒、肋木等の運動を奨励したものです。この弯曲症の患児は、今でも見かけますが、数は少なくなりました。

戦前の児童に比べて、現在の体格は、栄養面、運動面の向上により、身長も伸び、肥えもし、清潔にもなつて来たのは、誠によろこばしい傾向ではありますが、惜しいかな体力が劣っているようであります。これは、戦後、子供を少

く生むせいか、過保護になり家庭内の体力造りが、不足しているためと考えられます。戦前、親は子供が下校するのを待ちかまえて、又時には、授業を休ませてまで家業の手伝いをさせたものです。手伝いのない時は、友人と山野を走り回って木の実を採ったり、蟬を追いかけてたり、魚を獲ったりしたものです。こうした事は、いつしらず体力をつくったのではないでしょう。家が手伝う事は、体力造りの一助となるばかりでなく、戦後とかく、過労になり易い父母

謹んで石田先生の「眞福をお祈り申し上げます」



故石田嘉邦先生

双三医師会「弔辞」

双三地区医師会を代表して謹んで故石田嘉邦先生の御霊前に申し上げます。
先生には、一昨午前九時五十五分御家族の手厚い看護にもかかわらず薬石効なく享年四十七歳十か月の短かい生涯を閉じられ忽然として黄泉の旅に立たれました。
生者必滅のならないとは申せ、驚愕全くなす由もなくはただただ人の世の無情を嘆かすにはいられます。先生は昭和二十六年山口大学医学部を御卒業になり、内科特に小児科について御研鑽を積まれ、その後家業の医業を継がれました。爾来二十余年優れた才能と深い経験のもと地域医療に鋭意専念されました。
患者に対しては、懇篤鄭重、温容

を幾分でも助ける事になるし、共に働くことによつて、親子間の信頼感も深まると考えられます。今後の児童は、勉強もさる事ながら、体力にもっともつと注意を払うべきであります。
私が、此の度の荣誉にあつたのも、体力があつて、長生きしたお蔭であると感謝しています。
大変長々と、つまらぬ話を書いて紙面を汚した事を謝しつつ筆を擱きます。

春風のごとく親しまれ誠に信頼あつき人柄でございました。
又、先生は双三地区医師会の監事として誠実一路任務を遂行されその偉大なる業績と円満なる御性格はわれわれに多くの感銘と規範を与えられました。
悲報に接し痛恨止みがたいものがございます。

最後の瞬間未だ成長過程にあるお子様のことについて何を語り、何を思つておられたか何れもありませんが、その心情を思うとき、万感胸に迫るものがございます。御遺族に対し将来共御支援申し上げますので安らかにお眠り下さい。ありし日のこととも思いここに謹んで惜別の辞を捧げ御冥福を祈ります。

昭和五十年五月十日
双三地区医師会長
野村節也



故石田先生の思い出

岸田 久



石田先生が、小学校一年生の時、私は、中学二年生だった為、生家は、お互に二百米も離れていなかったのに、共に遊んだ思い出はあります。先生の御尊父が病魔に倒れたので、昭和二十九年秋、吉舎へ帰つて来て、吉舎医会の会員として入会した時より交友が始まった訳です。会員中最年少者と云うことで、面倒な会の会計係を引き受けて呉れて、一年一回の泊旅行を始め、夫婦同伴の新年宴会、四月の花見、七月のナイター観戦の行事の時、腹巻の中に金を入れて持参し、酒に酔わない様に心掛けて飲んでいました。
宛に角、真面目で冗談も言えない性格でしたが、酒が入ると（一升飲めたと云う）段々と愉快になり、口数も多くなりました。平素おとなしく、やさしい映画スターになれば良かったのに、ひやかすぐらいの美男子でしたが、時々鉄胸を刺す様なきびしい言葉を吐くこともありました。今年一月九日、午後五時二十分頃、先生の奥様より電話があり、主人が往診先の患者で倒れて様子がおかしいからすぐ来て呉れとのこと、直

ちにかけてつけました所、一目で脳卒中であることが判りました。患者は私の家より二百米位の所でしたが、もう意識は殆どなく、私のかけ声にわずかに首を振るだけで、段々と意識が失くなって行きました。吉舎の全先生に連絡し相談の末、双三中央病院に入院加療するのが最も良いとのこと、若本先生の自宅へ電話したら、入院室が無いとのこと。三次市長の入院している五階特別室を、市長に替って貰う様、若本先生の好意により出来て、翌一月十日、病院の救急車に私が同乗して入院出来ました。（此原稿を書いている午前中に紙屋市長の訃報を聞きました）以来、双三中央病院の若本先生をはじめ諸先生の手厚い看護治療により経過順調で、歩行も可能となり、五月三・四・五日の連休には、外出許可も出て、自宅へ帰って診察室や、自宅の周囲を散歩して再起を期して、病院へ帰って行かれました。五月七日、昼食中再発が起り、八日午前九時五十五分、遂に鬼籍に入られました。我々吉舎医会の最年少者である石田先生が病魔におかされただけでもショックを受けていた我々なのに、更に死と云う最悪の報に接し、嘩然としている所です。
年若くして御尊父を失い、七人の兄弟姉妹の面倒を全部世話をされ、これから自分の御子供達の成長を楽しみにして、人生も医師も円熟期に入らんとする時に死じされ、残された奥様、子供さん達のおなげきは如何ばかりと思われま。先生の冥福を祈り、御遺族の御健勝を祈って擱筆します。

合掌

鎮痛・抗炎症剤

ノンフラミン®カプセル

一般名=塩酸チノリジン (単位当り ¥28.00)

製造=吉富製薬株式会社
販売=武田薬品工業株式会社

消化器系鎮痛・鎮静剤 Daipin®

上腹部痛に制酸剤の効果持続に...

ダイピン錠

一般名=メチレスコホルミン・メチル 硫酸塩 識別番号 106

第一製薬株式会社 東京都中央区日本橋三丁目14番10号

CERM 社 リウム・フランス 製 薬 品

故石田先生を偲んで…… *

先生とゴルフ
三浦 康 弘



そして、あのスマートな長身で、グリーン上を、ゆうゆうと歩かれ、楽しまれたあのお姿は、なつかしく今もはつきりと目に浮びます。小生は、年長ということで、グリーンクラブの会長に祭り上げられていたが、創生期の吉舎グリーンクラブの発展に尽力された先生の功績は大で、その後、次第に会員も増強され、現在では、21

東雲会員

太陽と遊ぶの記

ブロック便り

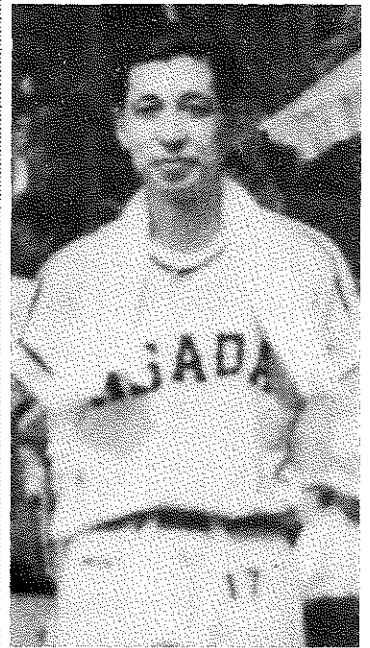
レポーター 高場 賢 治

ブロック便り

吉舎に、ゴルフクラブを創立したのは、今は亡き石田先生と新谷省三君と坂本隆志君と小生の四名が、四年前に「吉舎グリーンクラブ」と命名しスタートしました。石田先生と小生は、万年ハンデ36を固持し、会員より三次カントリークラブの札が、上らないものは皆に大おごりをしなればいけなさと驚かされ、懸命に頑張りまして、小生が一足先に31までになり、間もなく石田先生も31までになりました。記憶していただきます。

石田先生と小生は、常に良きライバルで、追いつ、追われつ、今日はボール二個或は三個と取ったり取られたり大変な接戦で、手に汗握る熱戦を楽しんだものです。コンペとなると毎回の様に、コンディションがよからうが、悪からうが常に小生に「今日は又握りやんしょうで」と挑戦されたものです。ショットの瞬間が、又独得な特徴があり、右足に体重をかけて打たれ、左足を大きく上げて、左に開いて「アリアー」と云われる姿は常にユーモアたっぷりであり、何とも愉快で忘れがたい思い出です。

名の多きに達しています。温厚で、ユーモアのある先生の人柄に接し、共にゴルフを楽しんだクラブの面々は、集まる毎に、亡き先生の面影を偲び、先生との数々の思い出を語り合っています。小児科をかかえている先生は、夜うち朝がけが多く、相当御無理をされたようです。本当に惜しい友人を若くして亡くしたものだと思念でなりません。



在りし日の石田先生(医師会ソフトボール大会)

「緑と太陽と伝説の国宮崎」のキャッチフレーズを求めて、我々東雲会員総勢十二名は、三良坂高島交通のマイクログラスで、六月十三日(金)夜出発。広島出島発午後十一時五十分、日向行六千屯の「ブリーゲンピリヤ号」で一路暗黒の海上を、南九州へと船出しました。久し振りの船出で、深夜にも拘らず、飲む程に大いに話に花が咲いた様です。気付かわれた豊後水道の難所も波おだやかに、夢の中にすぎ、一夜明ければ眼前に待望の南日向の山々が、朝もやの中に我々を迎えてくれました。空気がとても澄んでいました。午前八時日向着。立派な建物や岩壁にも拘らず、港全体は、如何にもひなびた感じでした。日向港から宮崎への途中、美々津ドライブインで朝食。この美々津は、紀元前七年十月十五日、御即位前の神武天皇が、大和平定の為に船出された港で、ここには、日本海軍発祥地の記念碑が立っています。

車中ガイドの語る天孫降臨にまつわる諸々の伝説や、風俗等を興味深く聞き乍ら、車窓をよぎる南国の風物詩の美しさにみとれたものです。国道の両側には、真紅のカンナ、夾竹桃が咲き乱れ、清澄な空気が緑と光のおりなす自然の中をひた走るドライブは、内地では味わえない最高のパノラマでした。宮崎市内へ入り、祭神神武天皇の宮崎神宮参拝。この社務所で、教育勅語を頒布していたそうで、二、三の先生方が、お求めになりましたが、如何にも宮崎の古き土地柄を感じた次第ですが、又、教育勅語を求められた先生方のお人柄もしのばれて、ほほえましい車中の笑いの一コマでした。何と云っても、我々戦前の年代は、古さからいって切れない根強さが、しみついてるのではないのでしょうか。宮崎市内を足もとの、霧島山群から日向灘まで一望出来る古墳台地が、平和台公園です。一九四〇年、紀元二六〇〇年を記念して、建設され

た立派な「八紘一宇」の石塔が、そそり立っています。この塔の裏手に緑の木立の中に、約四百の「植輪」がひっそりと古い姿をしのばせています。かくてバスは一路、日南海岸へと南下、国道二二〇号線が、戸崎鼻をこえる堀切峠を上りつめると、突然眼前に群青色にきらめく太平洋が広がります。遠く鶴戸崎まで一望におさまるこの時は、フェニックスがしげり、はまゆうが匂い、約二万本のバナナが群生しています。フェニックスは、宮崎の県木であり、はまゆうは、県花として、南国宮崎を代表しています。

ハイビスカス、ブリーゲンピリア、サンゴンドウの紅い花が咲き乱れるこの時の景観は、実に素晴らしいものでした。果てしない太平洋の青海原が、燃える南国の陽に輝く。眼下に広がる、波状岩に白くくだけ散る波しぶき、緑のフェニックスが、大空に羽をのびし、黒潮のうねりは、遠く昔をしのぼせるのでした。この時の、フェニックスドライブインで昼食。天気は良いし、さぞ観光客で賑わっているであろうと思っただけが、案に相違して人影もまばらで、観光バスも殆どいない、誠に閑静なのにびっくりしました。お蔭で人声も殆ど

しない静かな食堂で、ゆっくり昼食をとる事が出来ました。ここから折返し宮崎へ帰る途中、天然びろう樹繁る青島を訪れ、又、広大な子供園遊園地には、美しいソテツ林や、龍舌蘭が群生し、バラの花が咲き乱れ、白砂続く海岸のはまゆうの丘には、美しいロマンがいっぱいでした。

太陽輝く昼の南国の情緒も素晴らしいのですが、ネオン輝く宮崎の夜も又ロマンに満ちあふれた素晴らしいものです。観音街中央通りの夜更けの壮観さは、南国ならではの強烈なものでした。レポーターは、それらの風景をみて歩いただけですが、察する処、内地では味わえない情趣豊かな南国の夜のムードで一杯でした。

ともまれ、他の観光客にわずらわされる事なく、私達だけが旅している様な、のんびりしたムードで終始旅行出来、天候も快晴、海も平穏、行く先々で素晴らしい満喫出来た。

南国宮崎の旅は、本当に楽しい思い出となりました。尚、今回の旅行に当たり、万端にわたって、お世話をお願いしたケンコー産業KKの中山・高下両君の御苦勞に衷心より感謝の意を表し、この稿を終ります。



横山昌彦先生

明治四十五年二月十七日生
三次市江田川之内町五〇〇



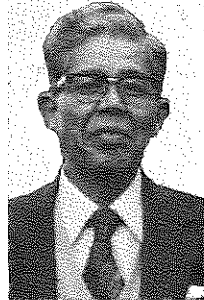
旧三次中卒。現大阪医大を昭和十一年卒業同附属病院内科副手として内科研修後姫路市医師として姫路市立診療所、向伝染病院勤務中昭和十六年病気に倒れ、郷里三次に帰る療養当時は世界第二次大戦のはた色は悪く昭和十九年に小生もついに軍医予備員に志願して広島西部二部隊に入隊(二十五日)無事帰郷、農業会厚生連吉田病院に勤務したが、体の方も自信がないまま

医師会だより

(昭和五十年四月一日より昭和五十年五月三十一日まで)

- 4月12日(土) 午後二時三十分から
第二十六回、学術講演会
於、三次文化会館
講演と映画
ア、学術映画、午後二時三十分
午後三時
イ、講演
「心筋梗塞の予防」
午後三時から

吉光 力先生



此の度、中村重孝先生には、学校医五十年叙勲おめでとうございます。

- 講師 久留米大学医学部教授 (第三内科) 木村登先生
- 5月7日(水) 予防接種契約書作製協議会
於、双三地区医師会館
出席者、野村会長・鳴戸・高場 西副会長
- 5月10日(土) 石田嘉邦先生葬
於 吉舎町臨川会館
午後一時
- 5月18日(日) 尾道市医師会館
落成式のため祝電打電

編集後記

梅雨の合い間をぬって、擦々たる陽光が、燃えるがごとく新緑を一層照らし、やがて、炎熱の真夏を迎える日も近い事と想像させら

先生御一家には、開業以来二十八年間、本当にお世話になりました。改めて御礼申し上げます。往年、野砲隊(小生は、戦時中約三年間勤務していた)の兵隊さん達が、三瓶陸軍演習場へと、馬で後先した雲州街道ぞいの此の布野村に縁あって開業して以来、早や二十八年。流石に、中村憲吉先生を育てた土地柄だけに、山紫水明、背戸の小川迄、歌いこまれた一木一草を眺め乍ら往診して、二十八年の月日が流れた。

約三十年の月日は、雲州街道に赤名トンネルが開通し、洗濯板と云われた二級国道を、一級国道にかえただけでなく、沿線には、ガソリンスタンド、モーター、カーテイルが、雨後の筍の如く並び、却って交通事故多発し、拙宅の谷ぞいの一畝入った所には、碎石場が、二か所と、ヒューム管の工場が完成し、出入りのトラックの轟音は、昼間、騒音公害をまき散らしている。でも夕方となると谷川のせせらぎでなく河鹿、宵やみに相まらず飛びかう螢が、昔の姿を残しているのは嬉しい。

雨後、碎石場から流れ出る、にぎり水は、河鹿がよく生きておられるものと感心するし、その谷川の濁水で出来る、ヒューム管の白さも七不思議の一つである。自然も人情も変わり行く中で、持って生れた口下手に、筆不精は、相も変らずである。それ故に、此のリレー作文も最も苦手の一つである。国民皆保険のおまけに、老人医療、乳児医療の補助は、お年寄りを大事に、乳児を大事にするとうう、社会福祉の落し子として生まれた法ではあるが、保険税をかけたとは云え、ロハの親孝行、お医者様任せ、即ち、あなたまかせの育児には、少々何か割り切れぬものを感じ乍ら、これが新憲法の云う「個人は尊厳にして云々……」か?と只、黙々と患者との明け暮れである。

裏山のみどりとのい、山したの川底に石の見ゆるしつけさ秋づけば必ずとほる砲兵隊の今日もとおりに国越えにけりれます。本号を今日お届けしますが、喜怒哀楽の多かった期間で、輝かしい布野村、中村重孝先生の受賞もあれば、吉舎町、石田先生の御不幸もあり多事多端な毎日でした。その間、臨床検査センターの方は、漸次件数も増加し、発展しつつある事は、御同慶にたえません。今後共、会員各位の御理解、御協力により、この「巴杏」の発展と会員相互の親睦が、一層密になる事を祈りつつ御筆します。尚、林正喜先生の紹介は紙面の都合上次号に掲載させていただきます。(永井記)

抗動脈硬化剤
抗キニン性・抗遅延型炎症反応因子性
血管透過性亢進阻止剤

ANGININ

BANYU PHARMACEUTICAL CO., LTD

新 広域合成ペニシリン

パセトシン® カプセル 細粒

「日抗基」アモキシシリン製剤

薬価 ■125mgカプセル 137.40 ・250mgカプセル 268.00
■細粒1g 197.00

協和発酵 特許許諾 英国ビーチャム社